

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2791600188		
法人名	アール・オー・エス西日本株式会社		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	吹田市寿町2丁目26-9		
自己評価作成日	平成 28年 7月 9日	評価結果市町村受理日	平成 28年 8月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvoCd=2791600188-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 7月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様同士が共に生活を送っている中で共に互いを気使い、いたわり合い、支え合える関係性ができている。寿が第2の我が家になれるよう今後も入居者様1人1人の思いを尊重し大切にしていく。その為にはスタッフ全員がスキルを上げ、尊厳を持ったケアが行えるよう努めていく。
今後、接遇マナーにも優れた施設を目指していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者・障がい者の方のトータルケアを目指す株式会社が、高齢者の多い地域のニーズに応えるために開設したグループホームです。すぐ近くに広い公園があり、季節の移ろいを感じることができる環境です。施設長はじめ職員は、利用者が喜怒哀楽の感情表現ができる支援を大切にしています。利用者同士が助け合い「支え合う暮らし」を支え、職員が「年をとるのも悪くない」と思える利用者の暮らしを目指しています。地域住民に「自分たちの地域の中に寿がある」と思ってもらえる地域連携を今後も積極的に取り組んでいく予定です。利用者同士が作った穏やかな空気感をみださない職員の動きは、居心地のよい雰囲気を作っています。開設5周年記念行事に利用者と共に参加できたことや家族の安心された顔に、グループホーム職員としての役割を再確認した職員が支える利用者の暮らしは、さらなるサービスの向上が期待できます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>厳しい人員不足の中で、日々の業務に追われている状況でありホームの理念を常に意識出来ていないこともあるが実践できるよう努めている。</p>	<p>ホームの名前、「ことぶき」を頭文字に入れ、「☐コミュニケーションを大切に、☑にも喜び分かち合う、☒んたん 役割わきあいあい、☓んじょ付き合い 助け合い」と職員で理念を作りました。理念は、フロアに掲げ、家族にも示しています。</p>	<p>今後は、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標等を検討されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩等で外出した際はご近所の方と挨拶は交わす程度であり、深い交流まではできていない。	近くに大きな公園があり、日常的に散歩に出かけています。散歩中に近所の人と立ち話してできる間柄です。地域の情報は民生委員や老人会会長が知らせてくれます。公園で行う地域の盆踊りは、散歩中に準備段階から見ることができ、当日は地域の配慮で利用者用の椅子を用意してくれています。ホームと同じフロアに「放課後等デイサービス」があり、子どもの姿や声が聞こえてきて、地域との繋がりを感じる環境にあります。紙芝居、マジック、音楽療法等地域のボランティアが訪問し、最近では新しいボランティアも増えています。今後は、高齢者ふれあいサロンの参加や、ホーム玄関前の掃除、ごみ拾いを日課とし、地域との付き合いを深めていく予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、認知症サポーター研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的な開催は行っているが回数については不十分である。先月行われた会議では家族様より貴重な意見を頂き、改善に向け取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議を前回6月に開催し、地域包括支援センター職員、複数の家族が参加しています。内容は活動報告、研修、事故報告、今後の取り組み等報告しています。地域包括支援センターからは市の事業の情報もらい、家族からは職員の名前を知る方法や、利用者への脳トレについての希望等あり、改善に取り組んでいます。</p> <p>現在、会議は定期的に行われていない状況です。今後は、会議の要綱を策定し定期的に行う予定です。</p>	<p>「運営推進会議」の要綱を策定し、2ヶ月に1回会議を開催することが求められます。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>普段の連絡のやり取りや運営推進会議を通して協力関係を築きながら連携をとるよう取り組んでいる。</p>	<p>解らないことや困ったことがあれば、市の担当窓口相談するようにしています。市のグループホーム連絡会には市の担当者も出席し、情報の交換と連携を深めています。今後も、外部評価関係書類や事故報告書等の提出の機会に連携を深めていく意向です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 本代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束への理解が深められるよう、本社で行われている研修会に積極的に参加するよう呼びかけている。 玄関の施錠に関しては、入居者の安全の為にしている。	身体拘束に関する研修を実施し、職員で利用者の尊厳を守るケアの確認を行っています。ユニット入口は、安全を重視し、施錠しています。一人で出ようとしている利用者には、職員が付き添って外に出かけるようにしています。	利用者の安全を確保しつつ、閉塞感のない自由な暮らしを支援するため、できる時間帯からユニット入口を開錠するよう、検討することが望まれます。エレベーター前の広い空間を利用するなど、工夫してはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフのメンタルケアに力を入れている。定期的に行っている虐待研修への参加を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者様が成年後見制度を活用されている。司法書士を講師に招き研修を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の上、時間を取って理解、納得して頂けるよう丁寧に説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時に意見や要望等は伺っている。できるだけ運営に反映できるように努めている。	運営推進会議には家族にも参加してもらい、意見や要望を聞く機会としています。職員は家族の面会時に声をかけ、近況報告をしながら、家族の声を聞くようにしています。面会の少ない家族には電話で近況報告をし、話の中で意見、要望を聞いています。	家族へ書類送付する際に、利用者の日頃の暮らしぶりを解ってもらえるよう、写真や手紙等同封されてはいかがでしょうか。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話の中で、意見や提案を聞いている。 直ぐに実践できる事に関しては反映させている。	毎月の全体会議で意見を出し合い、サービス向上に向けて話し合っています。施設長は、日常的に何でも話せる雰囲気作りや、職員のメンタル面への配慮に心がけています。また、自分たちが働く職場のことは自身で考えるという、職員の自主性と創造力を尊重しています。 職員同士で感謝を伝える「感謝ノート」は、チームワークをよりよくしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は把握していると思うが、向上心を持てるような環境、条件の整備等は不十分な部分もある。 定期的にスタッフの面談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員の力量を把握し、本社で行われている研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	公開講座や交流会の開催等の情報を掲示して参加の機会は作っているが、時間のとれる職員が少なく、限られた人数での参加となっているが、サービスの質向上に向け取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の関わりの中で不安や要望等伺い、職員全員で周知し入居者様との信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入居の期間を設けている。 入居者様の様子等を常に電話等で伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを確認し、日々の関わりの中で見極め職員間で周知している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の念を持ちつつ、本人様のやりがいを見つけて頂き支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会時は、短時間のみ本人様も含めての会話に入り、現状を伝えたり、昔のお話を聞かせていただいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>会話の中で馴染みの人や場を思い出して頂いている。</p>	<p>ホームに学生時代の友人が訪ねてきて利用者の部屋でゆっくり過ごすことや、近くの喫茶店に行くこともあります。日頃の暮らしぶりをはがきで知らせてくる友人や、年賀状でのやり取りもあります。外出の際に以前住んでいた家の近くを通り、近所付き合いのあった人と話をしたり墓参りをすることもあります。</p> <p>日頃の会話の中で思い出話をし、昔を懐かしむ利用者もいて、職員は馴染みの関係や思い出を大切に支援しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>席の配置等を工夫している。 耳の遠い方には、スタッフが間に入り交流ができるよう配慮している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>移動先への情報提供や移動後の経過や情報交換を含め、相談支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本音を出して頂けるようコミュニケーションを取るよう努めている。	利用者一人ひとりの思いや希望等の情報収集については、入居面接時に本人・家族から聞き取っています。日常的な支援やコミュニケーションをとる中で、傾聴の姿勢を大事にしています。日々の関わりの中での気づきや発見は、会議の中で共有しています。	日々の関わりの中での気づきや発見は、連絡ノート等に記録し、職員間で共有し、よりその人らしい暮らしの支援に活かすことが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時のアセスメントに基づき日々の会話の中で引き出し、サービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立の入居者様に関しては居室で過ごされている際に様子を伺ったり、訪室し傾聴し、心身状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	カンファレンスを行い、現状の問題に対し意見交換を行い最善のケアに取り組んでいる。	<p>入居時、利用者や家族の意見・要望を聞き取り、介護計画を作成しています。普段の会話の中で気づいた利用者の思いを大切に、介護計画に反映させています。モニタリングは毎月実施し、作成した介護計画は職員間で共有しています。</p> <p>今後、カンファレンスへの本人・家族の参加を働きかけていく予定です。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個別記録は詳細に記入し、情報を共有した上で、見直し実践に取り組んでいる。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	十分でない為、柔軟な支援やサービスの多機能化に向け取り組み、個別のニーズに対応できるようにしていきたい。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	コンサートに行ったり、吹田市の浜屋敷の見学に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回(入居者様の状態によってはそれ以上)の往診にて入居者様の状態を伝え対応して頂いている。</p>	<p>医療機関の受診については入居時に説明し、利用者、家族の希望に沿って受診できるよう支援しています。 ホームの主治医が変更になる場合にも説明し了解を得ています。 従来からのかかりつけ医への受診は家族が行っていますが、家族ができない場合は、送迎手配等の支援をしています。 日頃の健康管理は、月2回ホームの主治医の往診や、訪問看護師、歯科医による口腔ケア等の訪問があり、情報は記録簿で共有しています。 重篤な利用者には必要に応じ往診を増やすことや、夜間緊急時には24時間連絡ができる体制を整えるなど適切な医療支援をしています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護が週2回来所されているので、体調管理や処置等して頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院に至るまでは医療機関との連絡をとり、対応を指示して頂き、退院に至るまでは、家族様からの連絡により情報を得ている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	終末期のあり方については本人含め家族様と話し合いをしている。	<p>「看取りに関する指針」を作成し、入居時に説明しています。ホームでの看取りの事例があり、その時の対応を家族に満足してもらい、職員は貴重な経験をしました。</p> <p>現在もターミナルケアを実施しており、本人や家族の希望を聞きながらすすめています。本人が淋しくないように、できるだけリビングですごしてもらう工夫をしています。</p>	<p>今後は、看取りケアの中で感じた不安や課題を職員間で出し合い、より現場に即した看取り対応マニュアルを作成されてはいかがでしょうか。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	対応マニュアルはあるが、定期的な訓練等、実践的なことまでは十分でない為、より実践力が身に付けれるよう取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っている。	年2回避難訓練を実施し、1回は消防署指導の下で実施しています。災害時のマニュアルも作成しました。今後は、夜間を想定しての訓練を実施する予定です。 非常災害時の水や食料品の備蓄は、同会社が運営する他事業所に準備しています。	非常災害時に備えて、水や食料品の備蓄は、事業所内に準備することが求められます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮に欠ける話しかけが見られた時は、その都度指導を行い、入居者ひとりひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	利用者の尊厳を守る研修を実施しています。施設長は職員に、利用者は人生の大先輩であることを自覚し、敬意をもって接することの大切さを伝えています。利用者への声かけの際、職員は意識して利用者の側に行き、解りやすく丁寧な言葉かけをしています。排泄や入浴介助の際にも、同性介助に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	まずは入居者の希望、訴えを受容する所から始めることを心がけたい。 介護者の主観で否定をしがちになることがままあり、何を望まれているのか気づき先読みする力を養っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	望ましくは、全ての場面で選択の意思決定を入居者様に持って頂きたいが、業務優先になりがちなのはある。集団生活という性格上、食事や入浴など決まった時間になりがちだが声のかけ方、関わり方で、そう感じてもらわないよう工夫していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には、服を選ぶ所から働きかける。又スタッフが選ぶときでもTPOに合わせた衣服を選んでいる。整容(爪切り、髭剃り)も気づいた時は行えるよう心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ごとに盛り付けなどの準備、また後片付けなど一緒にして頂けるよう働きかけている。また、おやつ、レクなどで調理を楽しんで頂く機会も設けている。	食事は、チルド状態の副食を業者から運んでもらい、ご飯はホームで炊いています。ギョーザ・カレー・焼きそば等、利用者と一緒に作ることもあります。テーブル拭きや配膳等を自分の役割として参加している利用者もいます。食事を楽しむ雰囲気を心がけ、一人ひとりのペースに合わせた介助を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	摂取量の少ない方には高カロリー食品 の使用、むせのある方にはトロミを使 用している。お茶を基本提供している が、好みに合わせ、コーヒー、紅茶、ジ ュース類なども常に準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	3食後以外にも、起床時にも洗顔、整 髪と同時に口腔ケアも実施している。 歯科往診時、指示、指導してもらって いる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	定時の声かけ、トイレ誘導以外にも個 別のパターン把握し、回数増やパット、 リハパンなど清潔のためこまめに交換 している。 現状、おむつ使用者は4階はゼロであ る。	基本はトイレでの排泄です。排泄チェッ ク表の記録により、利用者一人ひとり の排泄パターンを把握し、声かけと誘 導を行っています。自立に向けた支援 やおむつを減らす取り組みを行い、現 在、ホームでおむつ使用者はゼロにな りました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などを通じて運動不足の解消、ま た下剤だけに頼らず、乳製品などで自 然に排泄できるよう試みている。 訪問看護で看護師より指示、指導して もらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日などは設定せず、希望に合わせてられるようにしている。 同性介護も配慮している。 お風呂嫌いの方もおられるが、コミュニケーションをとり、関係を築き、清潔保持できるよう努めている。	基本は週3回の入浴ですが、希望があれば、いつでも入れるようになっています。入浴を好まない利用者には、無理強いすることなく、自宅での入浴時間に合わせるなどの工夫をしています。好みの石鹸を使っている利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜、不眠で居宅で休めない方は楽なソファで過ごしてもらえよう支援。 また、午後休養の時間を取れており、気持ちよく休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の方と連携を取り、薬の効能や副作用の情報は貰っている。 新しい薬の処方時は記録に残す。 申し送りで伝える事をし、状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事、掃除、洗濯などその方の能力、意欲に合わせて役割を持ってもらい、一緒に家事を行っている。ただ、する方に偏りがでないよう当番や役割の幅を広げ多くの方に張り合いを持ってもらえるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	徒歩5分以内に緑の多い中之島公園があり、日常の散歩、春は桜並木もあり、よく利用している。 最近では、近所にできたペットショップに出かけ、普段機会の少ない動物に触れていただいたりもしている。	すぐ近くに広い公園があり、安心して散歩ができる環境です。ペットショップやスーパー、コンサート、海遊館への外出を楽しんでもらっています。桜や紅葉など季節毎の花見にも行きます。気候の良い日は、おやつを持って公園に行き、季節の移ろいを感じています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族が行っている。 外出、買い物など希望、要望のある時は、ご家族と相談し実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人様から発信の電話や手紙は現状行えていない。季節の年賀状や暑中見舞いなど始めてみたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中リビングの窓際は南向きで、日当たり良好であるが、分厚いカーテン一枚だけなので、閉め切って閉塞的にならないよう、もう一枚レースのカーテンが付けれるか検討している。 気候の良い時期は窓も開け、風を取り入れ、温度や外からの音も感じてもらえるようにしている。	ホーム内は明るく、穏やかな雰囲気です。ベランダからは、花火大会を見ることができ、利用者の楽しみになっています。リビングには、ゆったりとくつろげるソファが置かれ、家庭的な雰囲気です。壁には写真を飾り、思い出を楽しんでいます。リビングにあるカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、生活感が漂っています。 利用者同士で作った穏やかな空気感をみださない職員の動きは、利用者に居心地の良さを感じさせています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新規入居者など顔ぶれが変わる時は人間関係や良好なコミュニケーションが取れるよう座席位置を配慮している。 また、テレビ、レク用品等、取り出し使いやすい位置に整理整頓が必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それまでの生活歴で使用されていた馴染みの物(家具、食器類、嗜好品)などは、引き続き有効に使用して頂いている。ご家族にも再度相談し、より良い居室を作っていく。	利用者が以前使っていた馴染みの家具や、大切にしている家族の写真等を持ち込み、その人らしい居室作りを工夫しています。仏壇を持ってきている利用者もいます。ベッドとタンスはホームで準備していますが、安全のために畳の居室で過ごす利用者もいます。家族が壁にシールで飾りつけをした居室もあり、家族が利用者を想う気持ちを尊重したケアが伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物に関しては、手摺りの設置場所や位置の見直しが必要と思われる個所もある為、より安全で自立した生活が遅れるよう意見を聞きながら見直し、工夫等を行っていきたい。		